

# 不活化ポリオワクチン定期接種導入前後の ポリオの予防接種状況および抗体保有状況について ～感染症流行予測調査より～

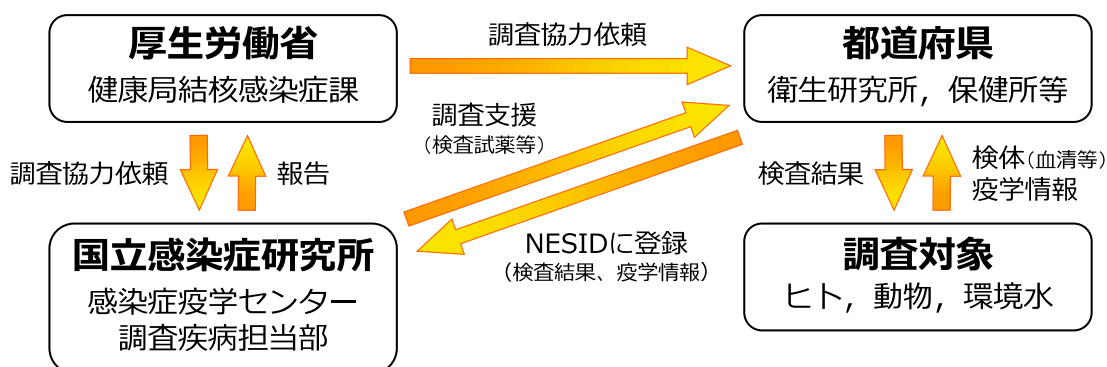
2009～2017年度 ポリオ感受性調査実施都道府県/都道府県衛生研究所

北海道、山形県、群馬県、千葉県、東京都  
富山県、愛知県、山口県、愛媛県

国立感染症研究所  
ウイルス第二部、感染症疫学センター

1

## 【感染症流行予測調査の概要】



ポリオ、インフルエンザ、日本脳炎、風疹、麻疹、  
HPV感染症、水痘、B型肝炎、百日咳、ジフテリア、  
破傷風、肺炎球菌感染症、インフルエンザ菌感染症

定期接種対象疾患について調査

**感受性調査**(抗体保有状況調査)

**感染源調査**(病原体の検出・同定, 活動状況調査)

**疫学情報**(地域, 年齢, 性別, 予防接種歴, 罹患歴等)

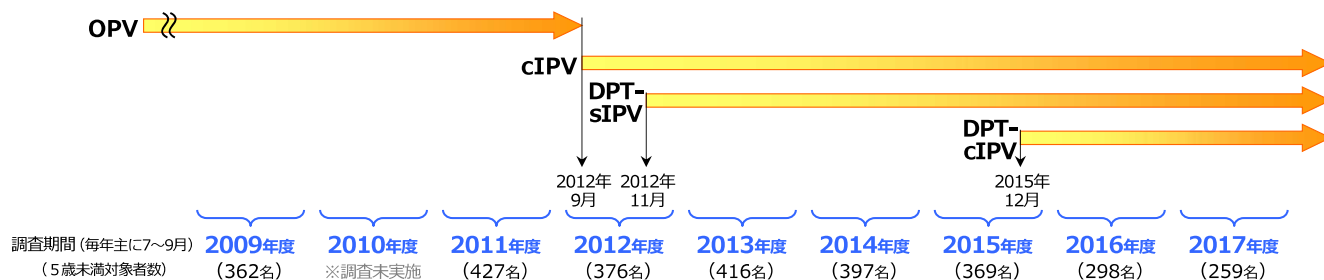
## 【ポリオの定期接種】

- ✓ 従来、経口生ポリオワクチン(**OPV**)による2回接種
- ✓ 2012年 9月 不活化ポリオワクチン(**cIPV** ※強毒株由来)による4回接種に切り替わり
- 2012年11月 四種混合ワクチン(**DPT-sIPV** ※Sabin株由来)の使用開始
- 2015年12月 四種混合ワクチン(**DPT-cIPV** ※強毒株由来)の使用開始

[ 接種回数 : OPV 2回 ⇒ IPV 必要なし、OPV 1回 ⇒ IPV 3回、OPV 0回 ⇒ IPV 4回 ]

**【感染症流行予測調査：ポリオ感受性調査】**

- ✓ Sabin 1～3型に対する中和抗体保有状況およびポリオワクチン接種歴の調査



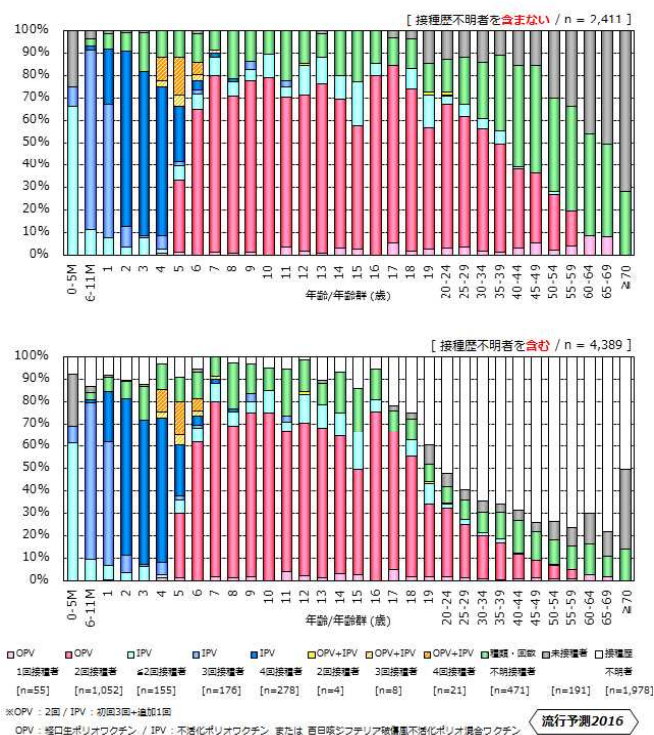
⇒ ポリオの予防接種状況・抗体保有状況について検討

①5歳未満児の2009～2017年度の推移、②10歳未満児の2017年度の状況

年齢/年齢群別のポリオ予防接種状況, 2016年<sup>※1</sup>

～ 2016年度感染症流行予測調査より～

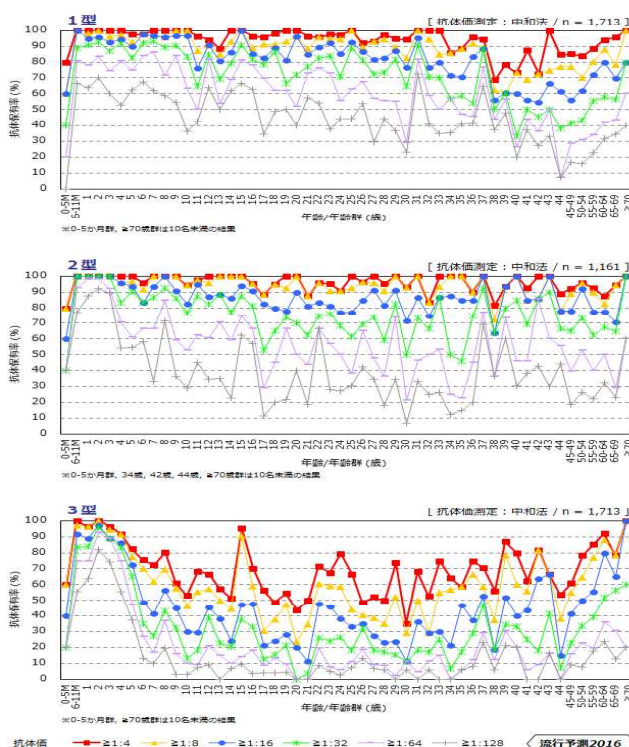
※1 2017年3月現在暫定値



年齢/年齢群別のポリオ抗体保有状況, 2016年

～ 2016年度感染症流行予測調査より～

※1 主に2016年7～9月に採取された血清の測定結果；2017年3月現在暫定値

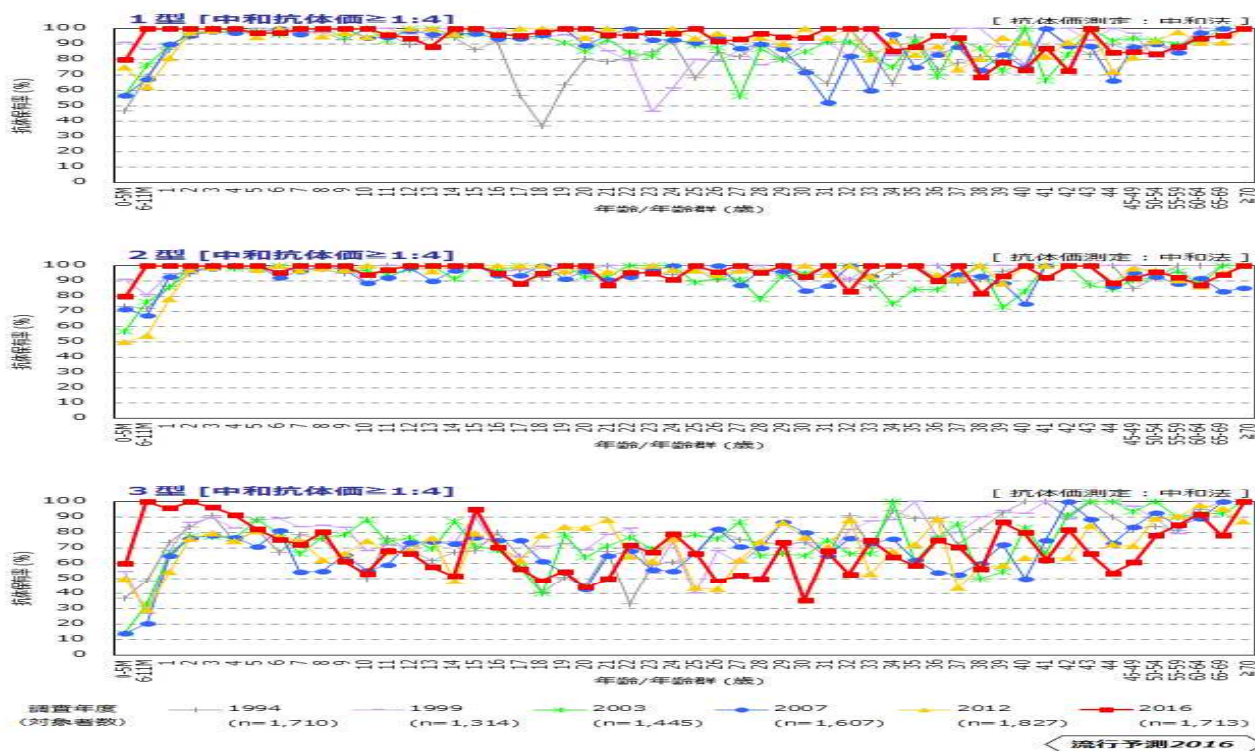


【2016年度ポリ才感受性調査実施都道府県】

北海道、山形県、千葉県、東京都、富山県、愛知県、愛媛県

# 年齢/年齢群別のポリオ抗体保有状況の年度比較, 1994～2016年※1 ～ 2016年度感染症流行予測調査より ～

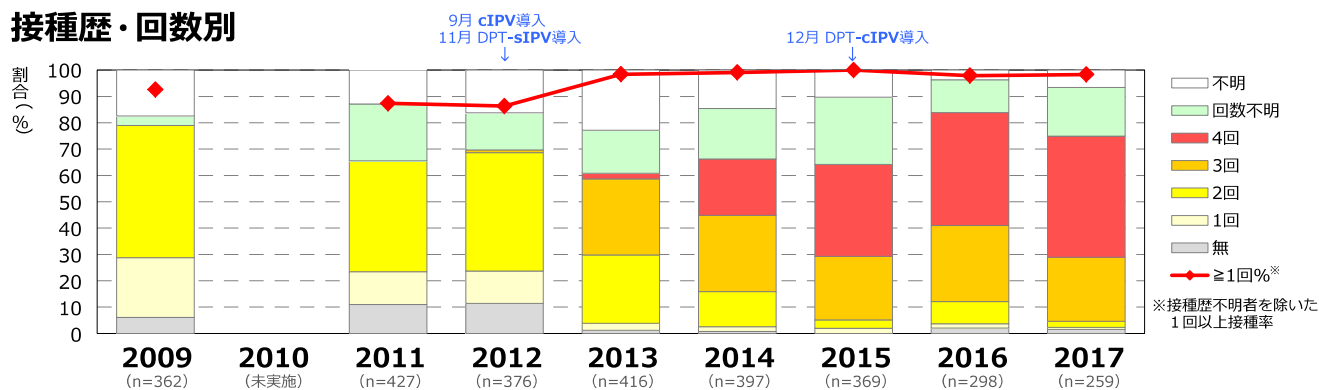
※1 2016年度は2017年3月現在暫定値



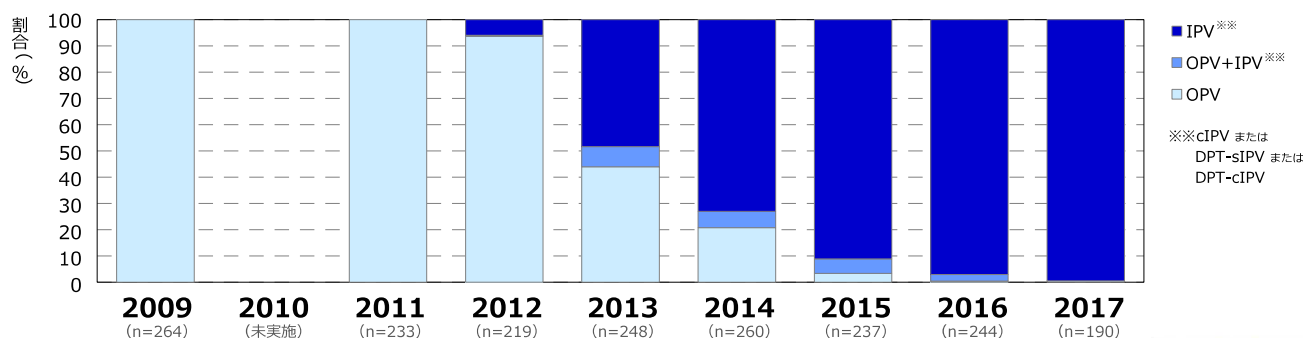
5

## 5歳未満児のポリオ予防接種状況, 2009～2017年度

### 接種歴・回数別



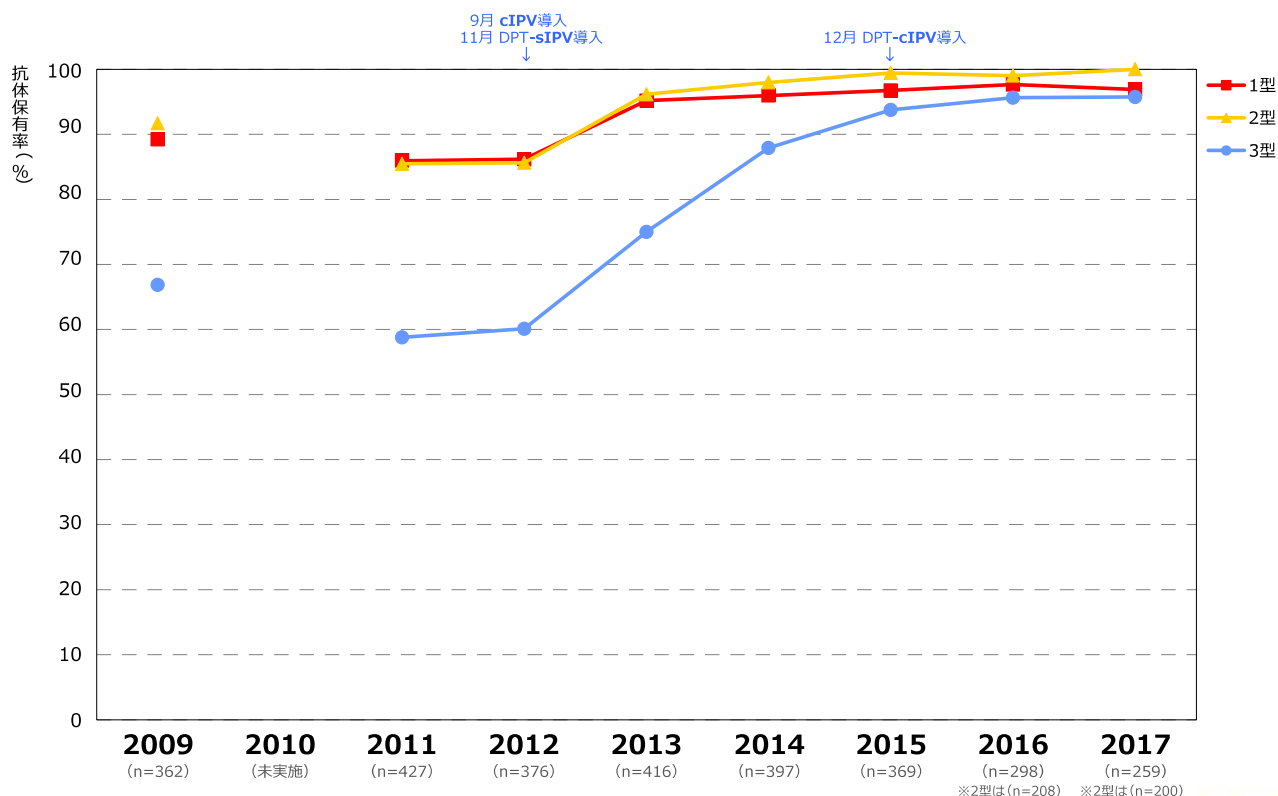
### ワクチンの種類別 (接種を受けたワクチンの種類・回数が明らかな者のみ)



6

3

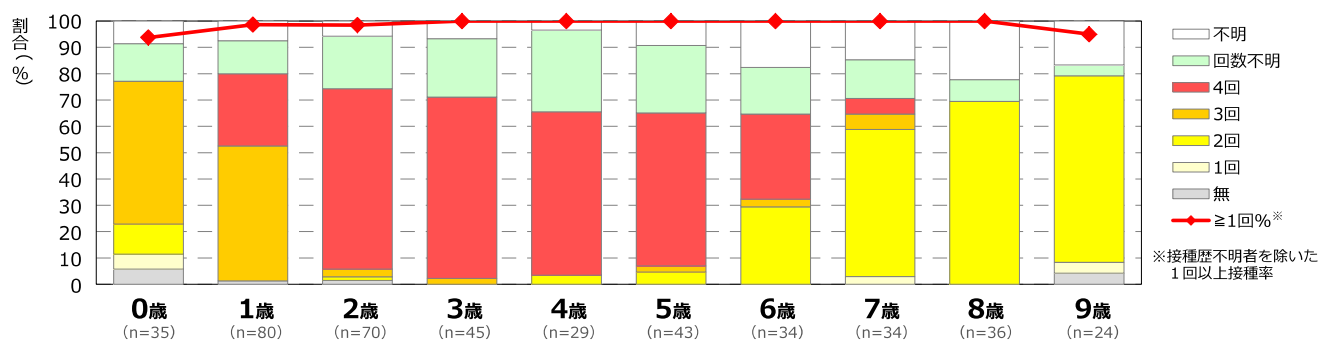
## 5歳未満児のポリオ抗体保有状況(中和抗体価1:8以上), 2009~2017年度



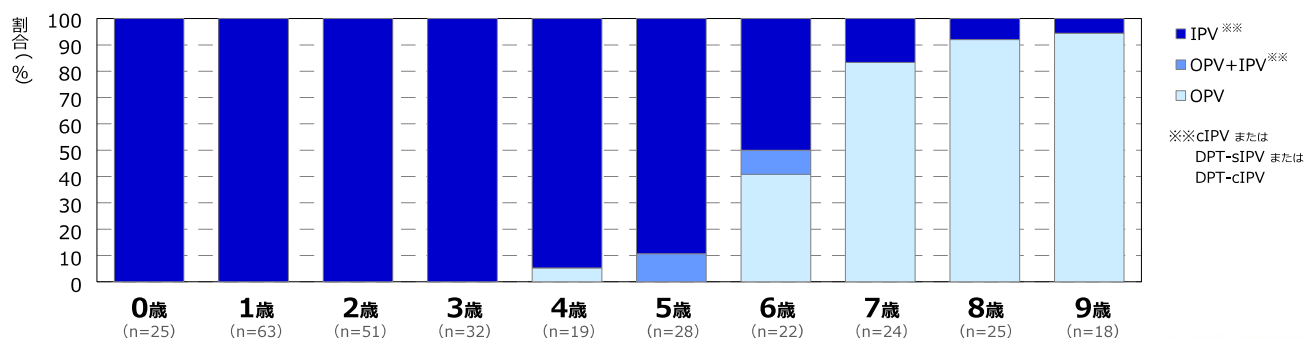
7

## 10歳未満児のポリオ予防接種状況, 2017年度

### 接種歴・回数別



### ワクチンの種類別 (接種を受けたワクチンの種類・回数が明らかな者のみ)

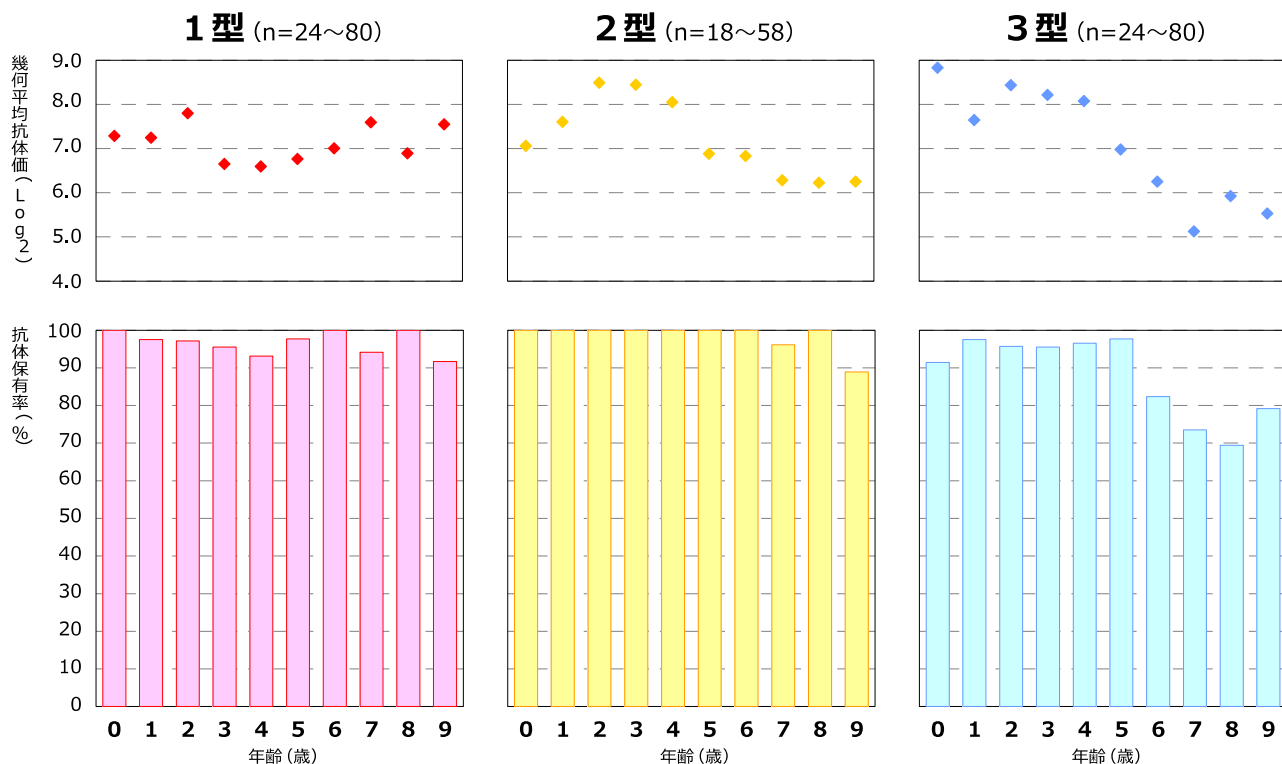


8

4



## 10歳未満児のポリオ抗体保有状況(中和抗体価1:8以上), 2017年度

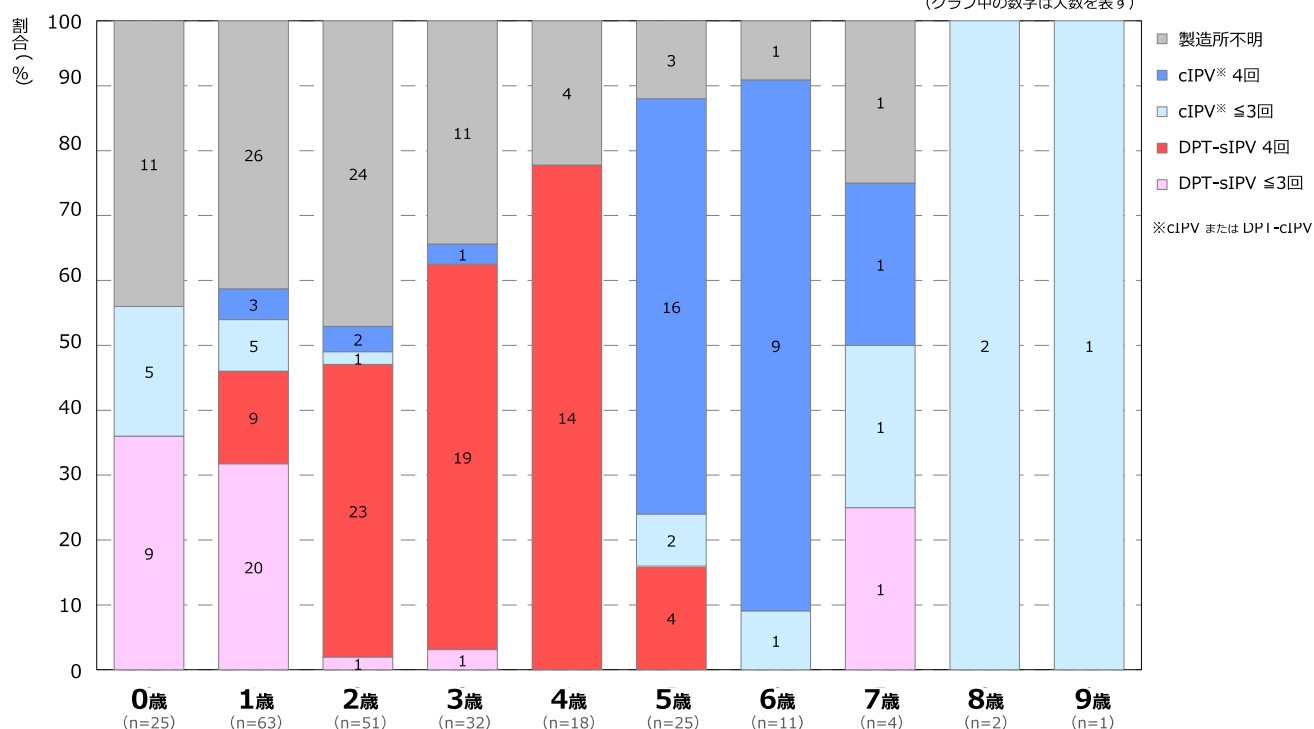


※幾何平均抗体価は中和抗体価1:8以上の者について算出

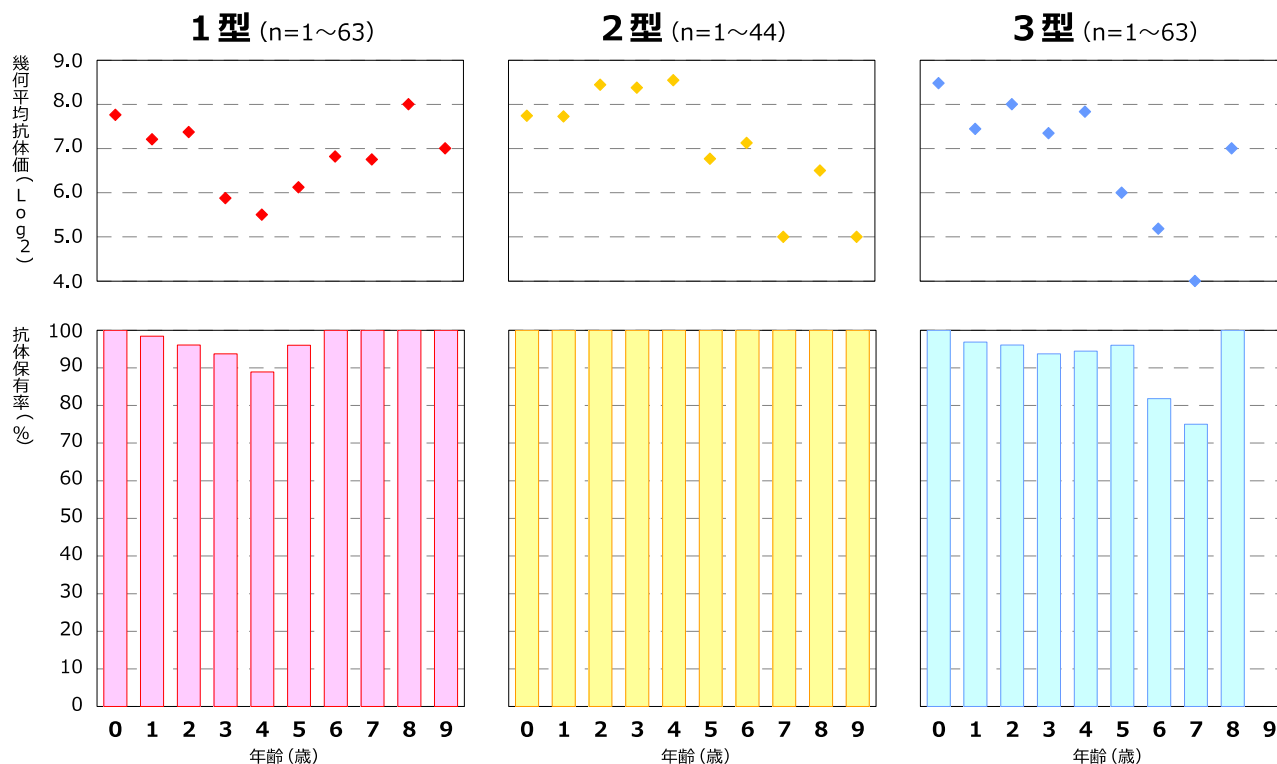
## 10歳未満児のポリオ予防接種状況(IPV被接種者のみ), 2017年度

IPVの種類別 (接種を受けたIPVの回数が明らかな者のみ)

(グラフ中の数字は人数を表す)



# 10歳未満児 (IPV被接種者のみ) のポリオ抗体保有状況 (中和抗体価1:8以上), 2017年度



※幾何平均抗体価は中和抗体価1:8以上の者について算出